

令和4年10月31日

太田市議会議長

岩崎 喜久雄 様

太田クラブ 代表 白石 さと子

会派行政視察報告書

- 1 期日 令和4年10月19日(水)から10月20日(木)までの2日間
- 2 視察地 長野市(第17回 全国市議会議長会研究フォーラム)
- 3 視察事項 (1) 長野県長野市
① 第17回 全国市議会議長会研究フォーラム
- 4 参加者 10名
白石さと子 山田 隆史 木村 康夫 町田 正行
正田 恭子 大川 敬道 中村 和正 木村 浩明
八長 孝之 神谷 大輔
- 5 視察概要 別紙のとおり

全国市議会議長会研究フォーラム

～デジタルが開く地方議会の未来～

〈10月19日（木）〉

○基調講演

「コロナ後の地域経済」

株式会社 経営共創基盤（IGPI）グループ会長

株式会社 日本共創プラットフォーム（JPIX）代表取締役社長 富山 和彦 氏

パネルディスカッション

コーディネーター：毎日新聞論説委員 人羅 格 氏

パネリスト：早稲田大学電子政府・自治体研究所教授 岩崎 尚子 氏

ゆとり研究所所長 野口 智子 氏

東京大学先端科学技術研究センター教授 牧野 出 氏

明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授 湯浅 懇道 氏

長野市議会議長 寺沢 さゆり 氏

〈10月20日（木）〉

課題討議

コーディネーター：慶應義塾大学大学院システムデザインマネジメント研究科教授

谷口 尚子 氏

パネリスト：取手市議会議長

金澤 克仁 氏

可児市議会議長

板津 博之 氏

西脇市議会議長

林 晴信 氏

（1）所感

太田市議会においても、議会改革特別委員会を設置し、議会のデジタル化についても議論を深めているところであり、本フォーラムの内容については、今後の議会改革の推進にあたり、参考にするべき内容であった。

登壇者の方の多くが話されていたのは、コロナ禍を経験し、また、昨今は、自然災害が頻発する中、非常時であっても、議会機能を十分に発揮し、住民とのコミュニケーションを確保することが、議会のデジタル化の意義であるということ

であった。

世を挙げての、DX化の流れの中、ツールを導入するだけにとどまらず、議会機能の本質を失わずに、「住民との対話」の意識を持っていくことが求められるとしたうえで、3名の市議会議長が各市議会の取り組みを話された。

他市議会に先駆け、ICT化に取り組んだことで知られる取手市議会の金澤 克仁議長からは、委員会、議案事前説明、現地視察、研修等をオンラインで開催し、場所についての柔軟性、時間の有効活用とともに、議論の活発化につながったとし、今後は、こうした実績の体系化を通じて、パッケージ化して、他市議会にも提案をしていきたいとのことであった。

可児市議会の板津 博之議長からは、他市議会の有効事例については、積極的に導入を図るとして、TTP（徹底的にパクリ）とのかことを提唱し、正副議長の立候補における所信表明を YOUTUBE で配信したことを挙げられた。

西脇市議会の林 晴信議長からは、市民からの議員定数4人削減の提案を市議会で否決したことで、市民からの厳しい目に対し、議会改革としてデジタル化を進めており、予算公聴会のオンライン開催の実施に向けて進めているとのことであった。

このような先進的な市議会の取り組みを参考にして、太田市議会においても、議会改革における、本質をとらえたデジタル化を進めていく必要性の認識をあらたにし、今後の調査研究を深めていくこととする。

